

1

造形教育の地域貢献型授業実践に関する研究 (徳川家康公 400 年祭 + 造形学部 + 静岡刑務所)

事業担当者

造形学部 造形学科 合津 正之助、 造形学部 造形学科 加藤 之敏 (代表)
造形学部 造形学科 チラユ・ポンワルット、

目的・概要

造形教育の授業改善の一環として、地域貢献型の授業形態(授業方法)としての取り組みを模索する。本年度は学生が家康公をテーマにした絵本制作を行うことで、大学の授業を通して静岡刑務所へのデータ提供を行うことで地域貢献を図る。

事業内容・方法

2015 年度の徳川家康公顕彰四百年記念事業 (主催 徳川家康公顕彰四百年記念事業推進委員会
会場: 静岡市・浜松市・岡崎市および静岡県内周辺市町 期間: 平成 27 年 (2015 年) 1 月 1 日 ~ 平成 27 年
12 月 31 日)、本学造形学部デジタル表現デザインコースの絵本制作、さらに静岡刑務所の印刷刑務作業の 3
つをあわせて、造形教育の地域貢献型授業実践の可能性を追求した。

デジタル表現デザインコースでの絵本の取り組みは、長年の授業での取り組みを重ねて来た結果、原画制作や製本に関しては完成度の高い作品制作が行われるようになった。授業作品のテーマは学生の得意とする自由テーマに任せて来たが、今回は、静岡県にゆかりのある徳川家康公顕彰四百年ということから、家康公をテーマに絵本の制作を行った。

7 月研究対象授業科目' 15 ワークショップのシラバス作成。

7 月絵本制作に関する徳川家康逸話の研究 (徳川家康の研究者: 小和田静岡大学名誉教授による講演の実施。)

※採択が 7 月下旬のため実施不可。

8 月-9 月学生による物語の設定と作画の制作実習。

10 月-11 月印刷・製本完成。

12 月静岡刑務所へのデータ提供。

1 月以降刑務所内での製品化。

事業成果

- ① 造形学部デジタル表現デザインコース 2・3 年生による学生 8 名の絵本のデータと製本の完成。
- ② 徳川家康公顕彰 400 年祭絵本贈呈式セレモニーの開催。

このセレモニーは、常葉大学、静岡商工会議所、静岡刑務所の 3 者による地域推進事業であることから一同

に集まる必要性から実施した。また、来賓として、静岡出身の前法務大臣衆議院議員、上川陽子様のお出でいただき、刑務作業としての学生によるデータの提供を強くアピールした。

〈会 場〉静岡商工会議所 202 会議室

〈日 時〉2015 年 12 月 18 日（金）14:00～

〈主な出席者〉小澤 政治（静岡刑務所所長）、

上川 陽子（前法務大臣衆議院議員）、

山崎 正（常葉大学静岡キャンパス長）、

合津 正之助 常葉大学造形学部長

絵本の贈呈：常葉大学造形学部学生から静岡刑務所所長に絵本およびデータの贈呈

（造形学部学生制作者 8 名中 7 名参加、1 名は授業のため欠席）



上川 陽子（前法務大臣衆議院議員）と学生

今後の展開

静岡刑務所への作品データの提供は3年前から行ってきた。大学が地域貢献を行うためには、今後も継続する方向性を取ることが望ましい。今回このプロジェクトでは主に大学がプロデュースを行ってきた。静岡商工会議所は、家康公400年祭のロゴの使用権や贈呈式のセレモニーの会場の提供をしていただいたが、静岡刑務所の協力がやや消極的であると感じている。絵本データの提供後の作業進行状況の報告などが稀薄なところが理由である。従って、大学側が下請け的にデータを提供するのではなく、両者のメリットを最大限に考えて行うことが大切であるとする。今後も造形教育における地域貢献のあり方をさらに考えていくとともに、検討していかなければならないいくつかの問題点がある。

- ① 絵本制作にかかる費用と授業時間数または制作時間の捻出。（学生の習得単位数を含む）

今回のこの地域連携事業においては、前期より実施できなかったため、できなかった計画があった。

- ② 原作制作の検討（テーマ設定と情報の収集の仕方）

今回は、造形共通科目「15 ワークショップ」で行い、比較的イラストレーション制作の得意な学生が履修を行ったが、ストーリーの構成など十分な原作の情報収集ができず、原画の制作に入ってしまった。

- ③ 静岡刑務所での印刷、製本技術の向上。（ブランディングとしての商品開発の検討）

昨年度提供をしたデータは授業で行ったイラストレーションの作品をはがきに印刷する内容であったが、製品としてのクオリティは不十分なものであった。

- ④ 地域貢献としての社会へのアピール。（情報発信）

今回は SBS プロモーションの協力をえて、TV のニュースアップや新聞掲載の報道を行っていただいた。地域連携事業においては、活動内容等を広く社会にアピールしていく必要性を感じるが、大学としてのニュース報道のあり方の難しさを感じた。（様々なメディアで報道をするためには、企画内容をニュースアップに応じたものに考慮する必要がある）



①



②



③

①～③は学生絵本作品表紙

造形教育の地域貢献型授業実践に関する研究

徳川家康公400年祭+造形学部+静岡刑務所

共同研究者：合津 正之助(造形) 加藤 之敏(造形) チラユ・ポンワレット(造形)



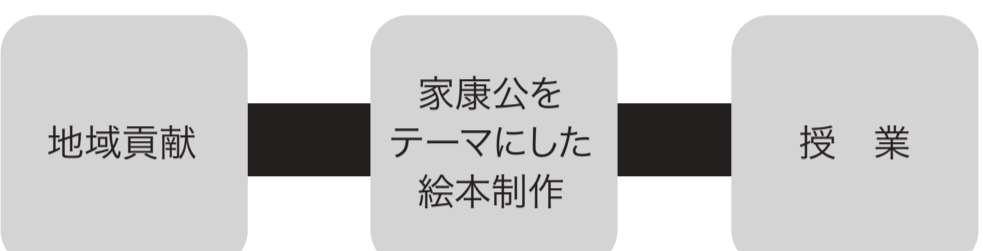
はじめに

美術やデザインは、以前より制作をとおして地域や行政と連携することが多く、特にデザインでは、国民文化祭などのイベントポスターの制作や、街おこし等の一環として作品展示やワークショップの参加を依頼されてきた。

特にデザインなどに関しては、専門性が高いため制作できる人が限られ、大学等の専門分野に依頼されるケースが多い。今回は、常葉大学造形学部と徳川家康公400年祭(静岡商工会議所)、静岡刑務所の3分担により、絵本の制作をキーワードにそれぞれの役割のなかで地域の連携を試みた。

本年度、平成27年度地域交流・連携推進事業は、採択が7月下旬に行われたため、学生などに計画を周知できなかった。従って、8月～9月の夏季休暇期間が有効に使うことができなかった。また、会計が年内であったため、5ヶ月の期間のなかで事業を推進したことになる。計画を実施するにあたっては大変ハードなスケジュールであった。

目的



- ① 地域貢献型の授業形態(授業方法)としての取り組みを模索する。
- ② 学生が家康公をテーマにした絵本制作を行うことで、地域貢献を図る。

家康絵本バックストーリー (一例)

④ 「人は負けることを知りて人より勝れり」

1 浜松城の前を通り過ぎる武田軍

「さあマヤコをめざせ!!」
「そんなちっぽけなハママツジョウなどムシ、ムシ」
※馬上で徳川軍をぶちまける武田信玄

2 浜松城の中で家康と相談する家康

「なに! シンゲンめ、ムシやがって! しゅつじんじゃー」
※血相変えて怒る家康猫
「との、てきはないくん。ここはシロにこもってたたかうほうがいいだ」と
※出陣をいさめる家康猫

3 信玄を退く、家康軍

「まて、まてーシンゲン! みかぶぶしにおそれをなしたかー」
※調子に乗って信玄を退く、家康猫。家康猫も続く

4 待ち伏せしている信玄。まんまとひっかけた家康を見てニヤリと笑う

「きおった。きおった。バカめが」
「それ、いやすくんをやっつけるー」
※信玄虎は3万の大軍を迎え撃つ。
※絵は大軍構えと吹き出しで信玄虎ニヤリ

5 かなりの大軍に驚く家康。しまっと思ってももう遅い

「しまった、ワナだった」
※失敗した顔の家康猫
※あーあ、という表情の家康猫

6 合戦シーン。猫と虎が戦っている。石を投げたり、弓を射ったり。砂埃が一掃で両軍入り乱れている

※ここはセリフなし。ワーワー、とかヒュンヒュン、ドカドカといった擬音のみ

来賓の挨拶：前法務大臣 衆議院議員 上川 陽子
絵本の贈呈：常葉大学造形学部学生から静岡刑務所所長に絵本およびデータの贈呈(造形学部学生制作者 8名中7名参加)

閉会の辞：合津 正之助 常葉大学造形学部長

テレビ放映 12/18(金) NHK 静岡放送「たっぷり静岡」
12/24(木) SBS 静岡放送「Soleいいね!」

新聞掲載 12/19(土) 静岡新聞 中部朝刊

協力：株式会社 SBS プロモーション



徳川家康公400年記念事業 絵本(成果物)

- ① おとのさまとあずきもち
おとのさまとあずきもち
- ② 勝つのはどっちだ
勝つのはどっちだ
- ③ ほのおのゆめ
ほのおのゆめ
- ④ 人は負けることを知りて人より勝れり
人は負けることを知りて人より勝れり
- ⑤ 徳川家康と可重香
徳川家康と可重香
- ⑥ 家康公と新人君
家康公と新人君
- ⑦ 家族とごはん
家族とごはん
- ⑧ 400年越しの祝辞
400年越しの祝辞

徳川家康公顕彰 四百年記念事業

静岡商工会議所

テーマ設定

常葉大学造形学部 絵本制作

記念事業へ参加 講師の依頼

作品展示

静岡刑務所

刑務作業(印刷)

学生データの提供

刑務作業製品販売

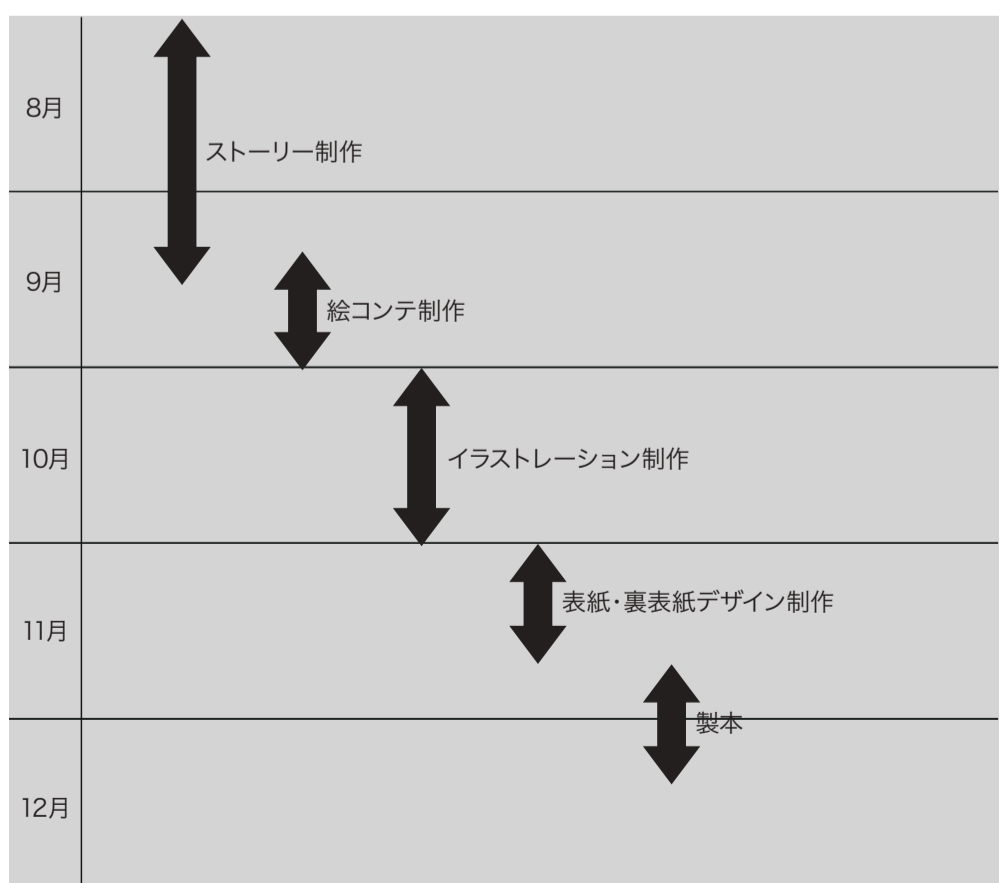
平成28年度東京矯正管内矯正展開催

事業計画及び実施方法

- 7月 研究対象授業科目「15ワークショップ」のシラバス作成。絵本制作に関する徳川家康逸話の研究(徳川家康の研究者:小和田静岡大学名誉教授による講演の実施。)
- 8月 9月 学生による物語の設定と作画の制作実習。
- 10月 11月 12月 制作・印刷・製本完成。
- 12月 静岡刑務所へのデータ提供。(セレモニーの開催)
- 2016年 1月 3月 刑務所内での製品化。(2016.7 現在製品作成中)

制作スケジュール

今回は、常葉大学造形学部と徳川家康公400年祭(静岡商工会議所)、静岡刑務所の3分担により、絵本の制作をキーワ



ドにそれぞれの役割のなかで地域の連携を試みた。

本年度、平成27年度地域交流・連携推進事業は、採択が7月下旬に行われたため、学生などに計画を周知できなかった。従って、8月～9月の夏季休暇期間が有効に使うことができなかった。また、会計が年内であったため、5ヶ月の期間のなかで事業を推進したことになる。計画を実施するにあたっては大変ハードなスケジュールであった。

7 馬に乗って政定する家康。供回りは2-3騎

「まけじゃー、まけじゃー」
「との、ここはひとまずにしてください」
※家康が身代わりになり、討たれていく。後を振り返りながら、逃げる家康猫たち

8 大きく開かれた城門の中に走り込む家康。

「がかりびをたけ!!」
「たいこをうちならせ!!」
※まだ負けてない、と相手に思わせる策略を指示する家康猫。最後のがんばり

9 「しかみ象」の家康猫

「このおまけは、いっしょうおすれない」
「なにかあったら、このえをみて、じっくかんがえるようにする」
※自分をいさめるための「しかみ象」。ここはセリフというよりは心の中の声として表現

10 天下統一の家康猫。つまり年取った家康猫。ふっくら撫でたい顔。立ち交。

・人は負けることを知りて、人よりましに勝れり
・戦いでは強い者が勝つ。辛抱の強い者が
・願いが正しければ、晴すれば必ず成就する
-徳川家康公格言より-

徳川家康公400年記念事業ロゴ・シンボルマーク



徳川家康公顕彰400年祭絵本贈呈式セレモニー

徳川家康公顕彰 400年祭絵本贈呈式セレモニーは、常葉大学、静岡商工会議所、静岡刑務所の3者による地域推進事業であることから一同に集まる必要性から実施した。また、来賓として、静岡出身の前法務大臣衆議院議員、上川陽子様の出席をお願いした。

徳川家康公顕彰 400年祭絵本贈呈式セレモニー式次第
会場：静岡商工会議所 202会議室
日時：2015年12月18日(金) 14:00~
挨拶：小澤 政治 静岡刑務所所長
挨拶：山崎 正 常葉大学静岡キャンパス長

事業成果の学内・学外への発信

事業成果の学外への発信としては、Webからの閲覧ができるようにした。このサイトは、デジタル表現デザインコースのブログ(常葉大学公式サイトにリンク)の中に開設をした。主にセレモニーの様子と学生の絵本をPDFにして閲覧できるようにした。

1. 学内作品展示
会場：常葉大学3号館3階ギャラリー
期間：平成28年1月14日~1月20日
デジタル表現デザインコース2年生の授業作品と合同展示。
2. 学外への発信
ホームページへの掲載。
デジタル表現デザインコースブログに開設。
URL:<http://tokodai.com/digital/pg241.html>
掲載内容：
徳川家康公顕彰 400年記念絵本贈呈式セレモニー
絵本PDFデータ(8冊分)閲覧可能

